

# (135) 群馬県沼田市の白沢鉱山

参考文献(1)、(2)を手引きに探査を行った。赤沢鉱山の資料集めの時に、この鉱山に関する資料を入手することができたのである。が、文献(1)では、鉱山の位置が不明確であった。文献(2)にたどり着いて、鉱山位置の詳細を把握することができたのである。そのおかげで、文献(2)を手引きに、容易に現地を確認することができた。鉱山施設跡、ズリ、転石、坑口、露頭鉱脈を確認した。

文献(1)によれば、本鉱山は銅・鉛・亜鉛・タングステンを含む鉱脈型鉱床。文献(2)によれば、本鉱山の鉱石鉱物は磁硫鉄鉱、磁鉄鉱、閃亜鉛鉱、輝水鉛鉱、脈石鉱物として螢石、石榴石、方解石、石英、となっている。共に他の文献からの引用であるが、少し食い違いが見られる。文献中では他の鉱山との混同によるものかもとの指摘がなされている。小規模の古い鉱山は忘れ去れ、現地の正確な記述もない場合が多く、鉱山名などもよく変わるの場があり、また、違う場所の鉱山が同じ名称の場合もある。

現地への経路は次の通りである。関越道を沼田ICで降り、日光・尾瀬に向かって120号を進んでいく。白沢地区で、左折し、望郷ラインに入り、北上していく。まもなく、道路は大きく左にカーブしながら、白沢川を渡る。その橋「松ヶ久保橋」当たりから、林道に入ることになる。歩いて直ぐに現地となる。石垣組の鉱山跡、ズリ、転石が容易に視認できる。坑口跡、露頭脈へは、山の斜面を登り上がることになる。その間転石が一杯である。

探査日 2014年5月

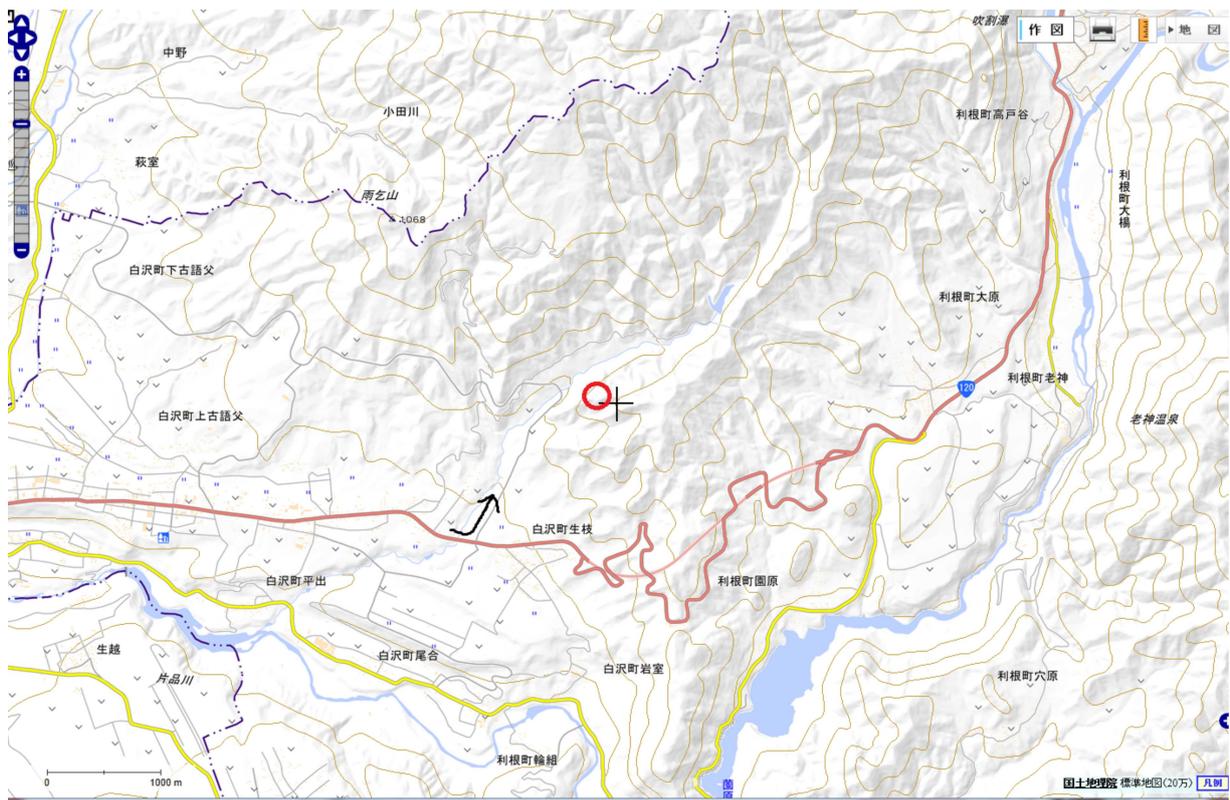


図1 国土地理院の地図サービスより複製掲載。左方向が沼田方面、右上方向が尾瀬・日光方面。120号を東進してきたならば、図中に記した矢印方向に左折し、「望郷ライン」に入って行く。赤丸が白沢鉱山跡。



図2 図1の部分の拡大図に相当。黄緑丸が坑口跡。茶ベタがズリ・転石。赤太線分が露頭鉦脈。橋脇からの林道を黒線で書き込んでいる。林道から坑口跡への明瞭な道はない。黒破線のどちらかのコースで登り上がればよいであろう。坑口、露頭鉦脈付近には十分なテラスがある。見晴らしも良い。休憩・昼食にはもってこいの場所である。

## 鉦山跡写真



写真1 120号を、生枝（なまえ）地区で、左折し、白沢川に沿っている「望郷ライン」に入り、北上して行く。写真の前方は白沢川に架かっている「松ヶ久保橋」。この橋の右側、電柱の所から、林道に入って行く。この当たり数台くらいの車の駐車余裕はある。



写真2 橋の所から林道に入って直ぐに、山の斜面側に石垣組、ズリが見える。林道には転石もある。直ぐに鉋山跡であるとわかる。この林道の先にもズリや転石が見られる。目指す坑口跡、露頭鉋脈にたどり着くためには、この斜面を登り上がることになる。明瞭な道はない。転石などを探しながら登って行けばよい。

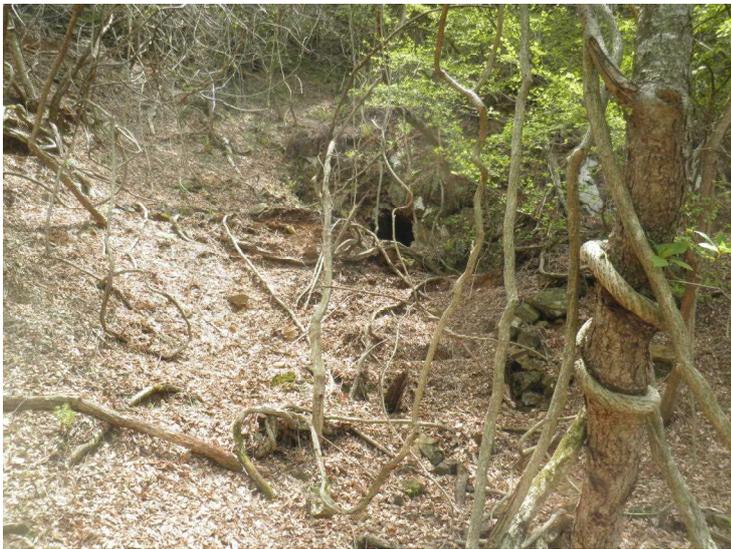


写真3 山の斜面を10分から20分登り上がる。坑口跡があった。写真中央少し上の小さな黒い部分。草木の生い茂った時期には隠されているかもしれない。その周り一帯はズリ。

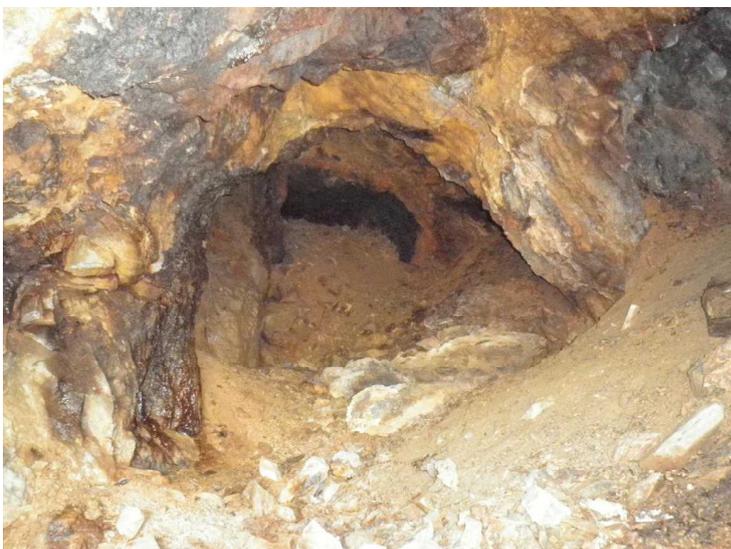


写真4 写真3で示している坑口の内部の様子。坑壁に鉋脈が観察できる。坑壁面の岩石は鉄系の鉋脈と思われるが。



写真5 坑口跡の少し上にあった露頭鉍脈。一見の価値はある。下は転石とズリが一杯。

## 鉍物写真



写真6 重そうな石をハンマーで一撃。その破断面。銀色に良く光っている。鏡鉄鉍系か。時間をかけてズリ・転石を観察すれば、いろいろなよい標本を採集することができそうである。徒歩時間も少なく、鉍山跡の見学実習には、好都合の鉍山跡と思われる。

## 参考文献

- (1)「群馬県沼田市白沢町の螢石を伴う鉍床中の鉍物について」、吉川、佐々木、大場、群馬大学教育学部紀要 自然科学編、第59号、55頁～70頁、2011年。
- (2)「群馬県沼田市白沢鉍山の鉍物と鉍床に関する基礎研究」、佐々木孝、群馬大学大学院教育研究科修士論文、2008年。補足 群馬大学中央図書館に在庫。